

生研 ニュース

PHOTO 倉科満寿夫



IIS NEWS
No.113
2008.8

●清掃業・大成サービスの皆様
前列左から
千葉さん、陳さん、
林さん、安保さん
後列左から
井上さん、瀬川さん、
加藤さん

IIS
TODAY

200メートル超のびっかびかに拭きたての廊下に座って戴いたのは、清掃業・大成サービスの皆様です。生研の廊下や階段、洗面所や自販機コーナーだけ（当然A棟も）がご活躍のフィールドではなく、生研からわざわざ先端研や食堂、駒場Iキャンパスの方へも遠征されている方がいらっしゃるのか。しかも朝は5時半過ぎ!! から始めないと、清掃が間に合わないのだそうです。残念ながら写真撮影に合流できなかった似鳥さんを加えたとしても、これだけの人数でこれだけ生研を綺麗に維持してくれているのですね。感激。でも、「最近じゃ少なくなったけれど、信じられないところに飲みか

けのコーヒーが置かれていたり、窓が開けっ放しになってホコリだらけになっていたり、びっくりすることもある」のだそうです。これを読んで内心ドキッとした、身に覚えがある貴方。皆さんに朝お会いしたら、せめて挨拶くらいしましょう。「挨拶だけは誰にも負けないよ」と屈託なく笑っていたお顔は日に焼けていらっしゃいました。なお、定期的にも不定期でも、部屋のゴミ回収を引き受けていただけるそうです。ご用命は、担当責任の井上崇さん（携帯：090-3211-1825）までどうぞ。あ！おはようございます!!

(小倉 賢)

新レストラン営業開始

駒場リサーチキャンパス公開初日の5月29日(木)より、An棟1Fでイタリア家庭料理レストラン「Capo PELLICANO (カポ・ペリカーノ)」が営業を開始しました。当面の営業時間は月～土曜日(年末年始・祝日等を除く)の11:00～15:00(ラストオーダー14:30) および18:00～22:00(ラストオーダー21:00)です。本格ピザ窯で焼くナポリピザなどが提供されています。アトリウム側にはテラスも設置され、ゆったりとした雰囲気の

なかで夜はアルコール類も楽しむことができます。

レストラン内には8名定員の個室が2つあります。また、大規模なパーティーを行う場合には、着席では60名程度、立食では200名程度まで収容することができます。

エレベーターホールをはさんで併設されたコーヒールーム「カポ」では、飲み物とケーキが提供されています(営業時間は11:00～18:00)。ランチタイムに

は食事も提供される予定です。

これで生協食堂、ニッコクトラスト(プレハブ食堂)、ネオ屋台村に次ぐ4番目の飲食施設がキャンパス内に誕生しました。それぞれ異なる内容のメニュー展開をしていますので、皆さまの多様な食事情にあわせて、ぜひ最大限にご利用ください。

(キャンパス・施設部会長 古関 潤一)



フランス高等教育・研究大臣の来訪と講演会

梅雨の中休みのさわやかに晴れ渡った2008年6月13日(金)に、フランスからValérie Pécresse (ヴァレリー・ペクレス) 高等教育・研究大臣一行が、駐日フランス大使Philippe Faure (フィリップ・フォール) 氏とともに来所した。大臣はサルコジ内閣で最も若手の大臣として活躍中であり、大学院時代には日本に滞在した経験もあるアクティブな女性大臣である。所長室では、本学を代表して岡村定矩理事・副学長も臨席し、前

田所長他14名とともになごやかに昼食をとりにした。クリーンルーム見学ではMEMSデバイスに大変興味を示され、何度も顕微鏡を覗く姿に、好奇心旺盛の人柄がうかがわれた。LIMMS/CNRS-IISで日仏の研究員たちと談笑した後に、当日のメインイベントである講演会場に向かわれた。岡村理事からの挨拶に続き、「高等教育と研究：日仏両国の架け橋」という、日仏交流150周年に相応しい内容の講演をいただいた。大臣の講演は、

冒頭の5分が明瞭な日本語で行われ、250名収容の会場に立ち見ができるほどの聴衆を大いに喜ばせた。日仏両国のさらなる研究交流を展望し、拍手喝采の中、コンベンションホールを後にした。未筆ながら、生研事務スタッフ・関係者のご準備、ご協力に厚く感謝したい。

(マイクロメカトロニクス国際研究センター長 藤田 博之)



正門への看板上掲

すでにお気づきになっているかと思いますが、生産技術研究所の看板が正門に設置されました。写真は、前田所長と野城・加藤・依田副所長による上掲式の模様です。

これまで、正門の門扉については更新

の可能性があることを考慮して看板を設置しておりませんでした。しかし、外側の植え込みにある看板と構内にある位置図のみでは外部から訪問されるかたに不案内な点がありましたので、このたび設置した次第です。

なお、この看板の文字は、千葉実験場時代の標札原稿に基づいています。オリジナルが千葉実験所の会議室（事務棟2F）にありますので、そちらも是非ご覧ください。

（キャンパス・施設部会長 古関 潤一）



総合防災情報研究センター設立記念式典

6月2日(月)16時30分より、東京大学大学院情報学環・福武ホールラーニングシアターにて、総合防災情報研究センター(CIDIR)の設立記念式典が開催され、行政、マスコミ、ライフライン企業、研究者、学内関係者など各界から約160人が参加しました。

CIDIRは、情報学環、地震研究所、生産技術研究所の3部局の連携により今年度から開設されました。「情報」の概念を核とした文理融合型の総合的な防災研究機関を目指しています。2008年3月12日(水)には、生産技術研究所にて設立準備シンポジウムも開催されました。

式典では、吉見俊哉情報学環長、大久保修平地震研究所長、前田正史生産技術研究所長の3部局長による挨拶、小宮山宏東京大学総長の挨拶の後、来賓

を代表して泉信也防災担当大臣、平木哲気象庁長官、JR東日本の石田義雄取締役副会長から祝辞をいただきました。続いて、地震防災対策強化地域判定会会長で中央防災会議委員でもある阿部勝征先生による講演、CIDIRセンター長である田中淳教授によるセンターのミッシ

ョンの紹介がありました。CIDIRには、生研からの兼任教員として大原美保准教授が参加しています。3部局連携による新しい防災研究の創造に期待したいと思います。

(都市基盤安全工学国際研究センター長 教授 目黒 公郎)



泉信也防災担当大臣からのご祝辞



満員となった式典会場

生研同窓会 生研の還暦祝いに向けて

5月31日(土)、駒場リサーチキャンパス公開の最終日に、生研同窓会総会が開催されました。今回はA棟に開店したばかりのCapo PELLICANOのお披露目を兼ねた会となりました。直前までや

きもきさせられましたが、公開に開店をなんとか間に合わせてしまうところが、生研事務部のマジックといったところでしょうか。総会においても話題となりましたが、来年は生産技術研究所創立60

周年です。還暦祝いに向けて、濃密な同窓会の準備が着々と進められています。卒業生の皆様のみますますのご支援をお願いいたします。

(同窓会幹事 吉川 暢宏)



同窓会記念撮影 2008.5.31

雨ニモマケズ… 「駒場リサーチキャンパス公開」大盛況

2008年5月29日(木)から31日(土)にかけて、駒場リサーチキャンパス公開が行われました。昨年度に引き続き生研と先端研との合同開催で実施され、あいにくの雨にも関わらず来場者数の集計は昨年よりも1000人以上増え8500人余りと大盛況でありました。最新の研究成果に対する来場者の満足度が高かったのはもちろんのこと、教育的な観点からは、SNGのアウトリーチ活動や土曜日の開催

が功を奏して中高生の参加者数は倍増しました。「難しい研究をわかりやすく説明してもらえた」「研究の世界に興味をもった」「もっと知りたくなった」などと大満足だったようです。A棟屋上に設置されたアドバルーン、京王線内での吊り広告、キャンパス内のサインシステム新設など、一般来場者にも親和性の高いインターフェースを提供する努力も好評だったようです。全体的に見ると、研究と

教育、マーケティングと生産活動がバランス良く配合されて情報発信されていたように感じました。来年は生研発足から60周年の節目にあたります。来場者とキャンパス関係者の意見をフィードバックして創意工夫に活用し、駒場リサーチキャンパスらしさがにじみ出るように皆で盛り上げましょう。

(人間・社会系部門・5部ニュース部会員
竹内 渉)



「未来の科学者のための駒場リサーチキャンパス公開」 11年目の新たな試み

「Scientists for the Next Generation! (SNG)」グループ（代表 大島まり）では、今年も、駒場リサーチキャンパス公開（5月29日（木）～5月31日（土））の期間中に、中学生・高校生を対象とした「未来の科学者のための駒場リサーチキャンパス公開」（旧称 中高生のための生研公開）を開催しました。

11年目の今年は、2つの新たな試みに挑戦しました。1つは、SNGの活動を先

端研にまで広げ、見学コースを先端研も含めた駒場リサーチキャンパス全体とすること。もう1つは、従来20～23名の班で行っていた団体見学を、10～15名の班にすることです。これはどこが挑戦かと思われそうですが、受け入れ研究室も引率員も従来の約1.5倍必要なので、手強いものでした。

結果として、生研・先端研の71研究室にご協力いただき、参加者は過去最高

の606名（昨年 約380名）となりました。駒場リサーチキャンパスが1つとなり、多くの中高生に対して「最先端の研究のアウトリーチ活動」ができたことは、大きな前進です。

最後になりましたが、協力研究室の関係者の皆様、引率員・受付員として大活躍してくださった大学院生・職員の皆様に感謝申し上げます。

（「知の社会浸透」ユニット 坪井 京子）



高校生のための金曜特別講座



2002年度より東京大学教養学部にて行われている「高校生のための金曜特別講座」が、2008年度より生研も協力する形で始まりました。生研でも同様の活動としてイブニングセミナーが六本木時代から20年弱行われてきましたが、行わ

れている時間帯が互いに金曜の夜であること、生研での研究活動もぜひ高校生に報告してほしいと要請があったことなどから、駒場Iキャンパスと連携して発展的に解消する形で本年度の開催に至りました。本年度生研から

は、初回の4月8日(火)に「空から地球の健康状態を診断する」と題して5部の筆者が、6月13日(金)に「電子の量子力学」と題して1部の羽田野准教授がそれぞれ講演を行いました。初回は高校生を中心に200名の参加者があり、割合は

おおよそ高校生8対一般の方2でした。本年度より、遠方のため東大教養学部には来られない高校生のために、この講座のインターネット・テレビ電話システムによる講座の配信が試験的に始められました。全国およそ40校のライブ双方向配信先の高校からも鋭い質問が連発され、東京の会場にいる高校生たちにも大きな刺激になっていたようです。高校生を相手に講義をすることは、筆者のような教育経験の浅い者にとっては極めて有効な経験の場であると身をもって痛感しました。本講座は、UROPなどと共に生研の研究成果を若い世代に伝える手段として有効な教育的取り組みであり、駒場IとIIキャンパス間の連携を一層深めるものと期待されます。

(<http://high-school.c.u-tokyo.ac.jp/>)

(人間・社会系部門 竹内 渉)

「水の知」(サントリー) 総括寄付講座が研究課題を発表

「水の知」(サントリー) 総括寄付講座設立記念シンポジウム～水の世紀に立ち向かう市民・政府・企業と大学～が7月4日(金)に本学大講堂(安田講堂)で行われ、約800人の聴衆を集めた。

本寄付講座が実質的に置かれている生研の前田所長ならびにサントリー株式会社の佐治代表取締役社長の挨拶に引き続き、小宮山総長、衆議院議員の中川昭一氏、日本水フォーラム事務局長の竹村氏、読売新聞記者の高倉氏、サントリー株式会社の小嶋取締役が、市民、政府、企業、大学の異なる立場から水問題への思いや取り組みなどを披露した。

これを受け、本寄付講座の代表を務める生研の沖教授が、「良質な水の持続的

な確保」、「汚染物質の動態解析とリスク管理」、「国内外の地域研究」、「水のLCA」に本寄付講座が取り組むことを発表した。また、サントリー株式会社が公開している「水大事典」、「わくわく体験授業」、「出張授業」への協力に加え、サイエンス・カフェ、オムニバス講義、共同研究、コンサルティング、受託研究、産学のセミナーなどを企画し、社会への情報発信にも取り組むことを宣言した。

本シンポジウムの実施にご支援いただいた皆様にはこの場を借りて心からお礼申し上げます。



登壇中の前田所長

連絡先：

info@wow.u-tokyo.ac.jp

Web site：

<http://www.wow.u-tokyo.ac.jp>

平成20年度の駒場リサーチキャンパス公開にあわせて、本郷医学部でも有名なCapo PELLICANOがAn棟1階に開店しました。先日、研究室のメンバーと一緒に土曜日のランチに行ってみましたので、レポートします。

ひと昔前までは、研究所の回りに食事に関する選択肢がかなり少なく、不便であると感じていました。このような場所が増えてくれることはすごくうれしく思います。これが第一の感想。

さて店内は、天井が高く一部分はガラス張りであることから、とても開放的で、研究所に併設されているレストランであることを一時忘れてしまうほどです。レストラン内には、4名用のテーブルが中心ですが、8名用の個室が2つあり、大人数で食べに行っても十分なスペースがあります。

注目の料理ですが、写真にあるとおりAコース、Bコース、他にCコースと本格ピザ窯で作られるナポリピザがあります。

味に関しては、言うまでもなく美味でした。こ

のような場所で、ここまで本格的なイタリアンが食べられるとは思っていませんでしたので、大変な驚きと感激です!! 次回は是非、ピザを食べに行きたいと思っています。

またお得な情報として、すべてのメニューにパン、食後のコーヒーがついており、パスタの大盛りはなんと無料となっています。

正直、学生の身分では毎日行けない値段設定ですが、週に一回の贅沢、なんていいですね～

(物質・環境系部門 小倉研究室 修士2年 長谷川 卓)



上品に並べられた
「ワンプレート盛り (Bコース)」



堆く盛られた「本日のパスタ (Aコース)」
参照用のミルクと高さを比較してください

VISITS

外国人研究者講演会

主催：(財)生産技術研究奨励会

6月2日(月)

司会：教授 桑原 雅夫

Prof. Carlos DAGANZO
University of California, Berkeley, U.S.A
TRAFFIC FLOW IN NETWORKS: SCALING CONJECTURES,
PHYSICAL EVIDENCE, AND CONTROL APPLICATIONS

6月6日(金)

司会：教授 田中 肇

Dr. Gunter K. AUERNHAMMER
Project Leader, Max-Planck Institute for Polymer Research,
Germany
LIQUID CRYSTALLINE DROPLETS IN AC FIELDS

6月9日(月)

司会：教授 浦 環

Dr. Sandeep Kumar BEHERA
Senior Coordinator, WWF-India, インド
1. THE GANGES RIVER ITS PROBLEM AND WWF-INDIA'S ROLE
IN MITIGATING THE THREATS
2. THE GANGES DOLPHIN WORK IN INDIA AND WWF-INDIA'S
INTERVENTION FOR THE CONSERVATION

6月9日(月)

司会：教授 浦 環

Prof. Rajendar BAHL
インド工科大学、デリー校 (Indian Institute of Technology,
Delhi)、インド
ACOUSTIC OBSERVATION OF GANGES RIVER DOLPHINS
FOR SUSTAINABLE CONSERVATION BY USING ADVANCED
ACOUSTIC AND INFORMATION TECHNOLOGY

6月16日(月)

司会：准教授 羽田野 直道

Dr. Pijush K. GHOSH
Researcher, Saha Institute of Nuclear Physics, インド
CONSISTENT QUANTUM PHYSICS USING PSEUDO-HERMITIAN
OPERATORS

生研訪問者

5月12日(月)

サウジアラビア王国 KAUST (アブドラ王立科学技術大学) 一行
H.E. Mr. Ali Ibrahim Al-Naimi, Chairman of KAUST Board of Trustees and, Saudi Arabia 他6名

5月20日(火)

フランス共和国 CNRS (フランス国立科学研究センター) 一行
Mr. Arnold MIGUS 長官 他1名

5月21日(水)

英国 EPSRC (英国工学・物理科学研究会議) 一行
Prof. David Delpy, Chief Executive 他1名

5月30日(金)

フランス共和国 LFJT (リセ・フランコ・ジャポネ・ド・トウキョウ) 一行
Mr. Rene VIALLE, Deputy Head Master 他5名

6月5日(木)

タイ王国 アジア工科大学院 (AIT) 環境・資源・開発研究科
Prof. Sivanappan Kumar, Dean

6月12日(木)

南アフリカ共和国 南アフリカ科学技術担代表団一行
Dr. Phil Mjwara, Director-General, Department of Science and Technology 他8名

6月13日(金)

フランス共和国 フランス高等教育・研究大臣一行
Mrs. Valérie Péresse 高等教育・研究大臣 他9名

7月18日(金)

サウジアラビア王国 サウジアラビア政府エネルギー関係研究者一行
Mr. Al-Abdullah, Abdullah Abdraboh, Ministry of Economic & Planning, Municipality & Housing Dept. 他4名



日本人とアジア人

都市基盤安全工学国際研究センター
田中 伸治

私は今年の1月より、タイのバンコク郊外にある、アジア工科大学院 (AIT) に赴任しています。AITには生研都市基盤安全工学国際研究センター (ICUS) の海外オフィスであるRegional Network office for Urban Safety (RNUS) があり、私はそのコーディネータを竹内渉講師とともに務めると同時に、専門である交通工学分野の客員講師として、交通工学科での講義を行っています。RNUSについては、竹内渉講師 (生研ニュースNo.110)、加藤佳孝准教授 (No.105) も紹介していますのでそちらもご覧ください。

AITでの講義は、1科目が90分の授業を週2回・15週間と、日本の倍近いボリュームがあります。必然的に準備も大変なのですが、私はITS (高度道路交通システム) という日本が先行している分野の講義を担当していることも

あってか、学生たちは総じて熱心に耳を傾けてくれ、教える方としてもやりがいがあるとともに気が引き締まります。AITには、一度社会人を経験した学生や、役所・企業から派遣されている学生がかなり多く、学部を出てそのまま進学した学生は少数派です。そのせいか、大学で身につけた知識を国に帰って自分たちの社会に生かしたいという意欲が日本と比べて高いように感じます。

4月には交通工学科で毎年恒例となっているField Trip があり、私も学生と一緒に夜行列車に乗り、タイ南部のスラー・ターニーという町に行きました。昼は交通観測調査、夜は宿で遅くまで雑談と、普段の授業とは異なりより深く学生と接することができ、アジアの各国からの学生のさまざまな事情や考え方を知るなど、自分にとっても非常に有益な経験となりました。

最近の学生が「日本」から連想するイメージは、車・電化製品であったりアニメであったりさまざまですが、依然として彼らにとって日本は模範であり目標であり、憧れであるようです。彼らの実直かつ真摯な姿勢を見るにつけ、日本が果たすべき役割、日本がアジアの一員であることを再認識させられます。東京にいるとつい忘れがちですが、今後もそうした視点を保ちつつ、自分にできる貢献をしていきたいと思っています。



■外国人客員研究員

氏名	国籍・現職	研究期間	受入研究室
ZHENG, Haiyan	中華人民共和国・東北大学材料与冶金学院 助教	2008. 4. 1～2009. 3.31	サステイナブル材料国際研究センター 岡部研究室
KUMAR, Sivanappan	インド・アジア工科大学 教授	2008. 5.24～2008. 6. 7	計測技術開発センター 加藤(信)研究室

■博士研究員

氏名	国籍	研究期間	受入研究室
XU, Guandong	イタリア共和国	2008. 7. 1～2008.12.31	マイクロメカトロニクス国際研究センター 藤田(博)研究室

• PROMENADE •

Javanese Oddity

Hopefully the title has caught your attention and you are reading further to find more misspellings by a graduate student of Tokyo University. In fact, “Javanese” is not a misspelling of “Japanese” but the term describing something originated from Java, Indonesia, where I was born.

A few weeks ago, while watching a Jack Nicholson’s movie, a conversation about “Kopi Luwak” was engaged by the actors. Kopi Luwak is an exotic kind of coffee. In Indonesian language, Kopi means coffee and Luwak is a name of a raccoon-like animal (Asian Palm Civet or *Paradoxurus Hermaphroditus*). The name of the coffee is derived from the fact that this animal likes eating tropical fruits including coffee berries. These coffee berries are then digested in a very natural way except for the inner coffee bean, which is defecated almost intact by the animal. The Javanese natives discovered that after washing and recovering coffee beans from this waste, a delicious beverage can be prepared from this chemically enhanced coffee. According those who have paid a large sum of money to have a cup, the taste is beyond this world, so good. Demand is high and production is low, only a few hundred kilograms are produced per year as the monkey-bears are not so many in the tropical forests of Indonesia. Next time, before buying a cheap pseudo-coffee in a chain coffee-shop better enjoy a kopi luwak and expand your senses and mind to the next level.

Talking about precious things from Indonesia, world’s largest archipelago, will not be completed without talking about the food. One of its regions called Padang (capital of Sumatra Island) has produced spicy food for more than 200 million Indonesian people. Its secret is in

the fresh and natural ingredients. You can mention all spices you know and I believe they will remain in this Padang food. I will introduce one of Padang food that really I recommend you to try. It is called “Beef Rendang”. This dish is a red-brown thick curry made from ginger, galangal, turmeric, lemongrass,



chili peppers, tamarind and coconut milk as the secret ingredient. The long waiting that one must withstand while cooking Rendang is worth every microsecond. I have cooked this dish for social gatherings among non-Indonesian friends and the impression has always been the same, tears of joy (from the spicy chili peppers), but their ultimate goal was to finish it all. Indonesian cuisine is rich in tastes and variety, even for Indonesian people. I consider Rendang is one of the most unique recipes in the world that competes face to face to Indian Curry and Mexican Mole.

I really hope this writing has made you curious to try some exotic things from Indonesian. I may suggest you to search for Indonesian festivals and also a good opportunity is on the University of Tokyo student festival.

(物質・環境系部門 吉江研究室 修士2年
Petty Sukarsaatmadja (インドネシア))

PERSONNEL

人事異動

教員等

(所内異動)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
20. 5. 1	JOHANSSON, Jorgen Alf Thure	昇任	准教授 基礎系部門	講師 基礎系部門

(特任教員)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
20. 5. 1	吉永 直樹	任命	特任助教	特任研究員
20. 7. 1	中野美由紀	採用	特任准教授 附属戦略情報融合国際研究センター	助教
20. 7. 1	甘蔗 寂樹	任命	特任助教	特任研究員
20. 7. 1	久米村百子	任命	特任助教	特任研究員
20. 7. 1	MONDAL ANIRBAN	任命	特任助教	特任研究員
20. 7. 1	楊 征路	任命	特任助教	特任研究員

(学内異動(出))

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
20. 6. 1	大原 美保	配置換	准教授 大学院情報学環	准教授 附属都市基盤安全工学国際研究センター

(採用)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
20. 6. 1	小林 徹也	採用	講師 情報・エレクトロニクス系部門	—

(兼務教員)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
20. 6. 1	大原 美保	兼務	准教授 附属都市基盤安全工学国際研究センター	准教授 大学院情報学環

(退職)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
20. 6. 30	中野美由紀	辞職	—	助教 情報・エレクトロニクス系部門

事務系

(休職)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
20. 5. 14	佐藤 綾子	休職更新	一般職員 総務課(人事・厚生チーム)	—

(学内異動(出))

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
20. 7. 1	山崎 義夫	昇任	医学部附属病院総務課人事労務チーム係長	総務課主任(総務・広報チーム)
20. 7. 1	木村 直之	配置換	農学系経理課経費執行チーム主任	経理課主任(連携研究支援室執行チーム)
20. 7. 1	筒井 明子	配置換	情報学環・学際情報学環図書係一般職員	総務課一般職員(図書チーム)
20. 7. 1	高橋 忠	配置換	医学部附属病院総務課人事労務チーム再雇用教職員	総務課再雇用教職員(国際産学チーム)

(出向)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
20. 7. 1	佐藤 一昭	在籍出向(昇任)	大学入試センター総務企画部情報情報サービス係長	総務課主任(総務・広報チーム)
20. 7. 1	森田 宏二	在籍出向(昇任)	大学共同利用機関法人情報・システム研究機構事務局総務課人事・労務係長	総務課主任(人事・厚生チーム)
20. 7. 1	大島 潤二	在籍出向(昇任)	大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立情報学研究所 企画推進本部ディレクター(企画推進担当) 付係長	総務課主任(国際交流チーム)
20. 7. 1	幸路 英吉	在籍出向(昇任)	大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立情報学研究所 総務部会計課経理チーム係長	経理課主任(財務・監査チーム)
20. 7. 1	清水 克也	在籍出向(昇任)	独立行政法人日本学術振興会 総務部経理課専門職員(財務調査担当)	経理課主任(執行チーム)

(学内異動(入))

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
20. 7. 1	市川由布子	配置換	総務課主任(国際交流チーム)	海洋研究所総務課国際交流係主任
20. 7. 1	水落 利明	配置換	総務課一般職員(図書チーム)	工学系・情報理工学系等情報図書グループ一般職員(情報サービスチーム)
20. 7. 1	田所 麻里	配置換	経理課一般職員(予算執行チーム)	本部監査グループ一般職員

(採用・復帰)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
20. 7. 1	高橋 浩幸	復帰	総務課副課長 研究環境調整室長	放送大学教務部学生課課長補佐
20. 7. 1	丸山 忍	採用	総務課係長(総務・広報チーム)	独立行政法人大学入試センター総務企画部情報情報サービス係長
20. 7. 1	松本 康男	採用	経理課係長(連携研究支援室執行チーム)	大学共同利用機関法人国立文化財機構東京文化財研究所管理部管理室会計係長
20. 7. 1	鬼澤 真樹	復帰	総務課主任(総務・広報チーム)	独立行政法人大学評価・学位授与機構管理部学位審査課認定専攻科係主任
20. 7. 1	辻谷 宏人	復帰	経理課主任(連携研究支援室執行チーム)	独立行政法人メディア教育開発センター事業推進部連携協力課企画・調整係主任
20. 7. 1	平山 栄作	採用	総務課一般職員(人事・厚生チーム)	大学共同利用機関法人国立文化財機構九州国立博物館総務課総務係

(所内異動)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
20. 7. 1	加藤 淳	勤務命令	総務課副課長(総務・広報チーム) 総務・広報チームリーダー	総務課副課長
20. 7. 1	鈴木 照夫	配置換	総務課専門員(研究環境調整室施設チーム)	経理課専門員(施設管理チーム)
20. 7. 1	尾迫 雅英	昇任	総務課主査(研究総務チーム)	総務課係長(研究総務チーム)
20. 7. 1	吉川 誠	配置換	総務課主査(研究環境調整室安全衛生チーム) 安全衛生チームリーダー	総務課主査(安全・衛生管理チーム) 安全・衛生管理チームリーダー
20. 7. 1	宮沢 光明	配置換	総務課専門職員(研究環境調整室施設チーム)	経理課専門職員(施設管理チーム)
20. 7. 1	福田 章	命	総務課係長(総務・広報チーム) 総務・広報チームサブリーダー	総務課係長(総務・広報チーム) 総務・広報チームリーダー
20. 7. 1	中村 正樹	配置換	総務課係長(研究環境調整室施設チーム) 施設チームリーダー	経理課係長(施設管理チーム)
20. 7. 1	横田 恭	勤務命令	総務課係長(研究環境調整室安全衛生チーム)	総務課係長(安全・衛生管理チーム)
20. 7. 1	伊藤 正則	配置換	総務課係長(研究環境調整室安全衛生チーム)	経理課係長(施設管理チーム)
20. 7. 1	川合勇美子	勤務命令	経理課係長(予算執行チーム)	経理課係長(施設管理チーム)
20. 7. 1	関 豊	配置換	経理課係長(連携研究支援室国際産学チーム) 国際産学チームリーダー	総務課係長(国際産学チーム) 国際産学チームリーダー
20. 7. 1	國京 毅明	配置換	総務課主任(研究環境調整室施設チーム)	経理課主任(施設管理チーム)
20. 7. 1	佐藤 綾子	勤務命令	総務課一般職員(総務・広報チーム)	総務課一般職員(人事・厚生チーム)
20. 7. 1	野田 純平	勤務命令	経理課一般職員(連携研究支援室企画チーム)	経理課一般職員(予算執行チーム)

PERSONNEL

ナノ量子情報エレクトロニクス研究機構 教員等

(特任教員)

発令年月日	氏名	異動内容	兼務職名・所属	本務職名・所属
20. 6. 1	田辺 克明	採用	特任助教	—

総括プロジェクト機構寄付研究部門「水の知」(サントリー)

総括寄付講座 教員等

(特任教員)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
20. 7. 1	田中 幸夫	採用	特任助教	助教 大学院新領域創成科学研究科

■昇任のご挨拶

基礎系部門 准教授

Jorgen JOHANSSON

(ヨハンソン ヨルゲン)



Almost 10 years have passed since I came to Japan as a research student. I am very grateful for the support I have received from the many people within and outside of IIS during this decade, without which I would not have reached my current position. Dealing with geohazards we try to quantify as much as possible of geological processes, mainly landslide and tectonic fault induced large soil deformations, as to help in reconstruction and improving geotechnical design. In the field we use different tools such as laser range meters, GPS, infrared cameras, Lidar, borings etc., and in the lab we do finite element analysis and data processing of digital elevation models. We are involved in activities both within and outside of Japan.

■採用



●総務課係長
(総務・広報チーム)
丸山 忍



●経理課係長
(連携研究支援室執行
チーム)
松本 康男



●総務課一般職員
(人事・厚生チーム)
平山 栄作

■配置換



●総務課主任
(国際交流チーム)
市川由布子



●総務課一般職員
(図書チーム)
水落 利明



●経理課一般職員
(予算執行チーム)
田所 麻里

■復帰



●総務課副課長
研究環境調整室長
高橋 浩幸



●総務課主任
(総務・広報チーム)
鬼澤 真樹



●経理課主任
(連携研究支援室
執行チーム)
辻谷 宏人

■着任のご挨拶

情報・エレクトロニクス系部門 講師

小林 徹也



6月1日付けで着任いたしました。これまでは神戸理研発生再生総合科学研究センターにて、工学や物理学、数学などの手法を生物学に取り込み新しい生物学の方向性を模索するシステムバイオロジーの研究に従事してまいりました。生研では、このシステムバイオロジーの研究から見てきた具体的な方向性である、定量的なデータに基づく生物学、「定量生物学」を進めてゆきたいと思っております。学際的な分野になりますので、ぜひ皆様に色々教えていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。



5月22日
構内環境整備の実施



INFORMATION

平成20年度外国人研究者・留学生との懇談会のご案内 SEIKEN INTERNATIONAL GARDEN PARTY 2008

生研における海外からの研究者・留学生らと日本の研究者、職員・学生らとの交流を深めるため、今年も「祭」形式による懇談会を開催いたします。今回も屋台による各国の食事の提供だけでなく、各国の文化を知ってもらえるような展示やパフォーマンスなどの催しを企画しておりますので、皆様ふるってご参加下さい。

生産技術研究所外国人研究者・留学生との懇談会
実行委員会委員長 迫田 章義



詳細

日時：平成20年10月23日(木) 16:00～18:00
場所：駒場Ⅱリサーチキャンパス「ユニバーシティ広場」
問い合わせ：国際交流チーム 内線56005 (Cw204)
kokusai@iis.u-tokyo.ac.jp
詳細情報：<http://www.iis.u-tokyo.ac.jp/iisonly/jimubu/kokusai/>
※このイベントは生研に所属する教職員、学生およびその家族が対象です。

For the purpose of promoting friendship among the researchers, staff and students from abroad and in Japan, IIS is planning to have a festival-like get-together party, "SEIKEN INTERNATIONAL GARDEN PARTY" in the similar way as the last year's one. Based on the last year's experience, we hope to have not only food-serving but also some displays, exhibits and performance to show your country's culture for the purpose of making more mutual cultural communication exchange. Please join us.

Akiyoshi Sakoda

Chairperson of the Steering Committee of the
"SEIKEN INTERNATIONAL GARDEN PARTY"

Details

Date : Thursday, October 23, 2008 from 4:00pm to 6:00pm
Place : "University Square" in Komaba II Research Campus
Contact: International Relations Section ext. 56005(Cw204)
kokusai@iis.u-tokyo.ac.jp
More precise info.: <http://www.iis.u-tokyo.ac.jp/iisonly/jimubu/kokusai/>
※ This event is planned for the IIS members and their families.

集まれ！ 発明王 第6回 東京大学学生発明コンテスト

発明って意外と簡単！

日ごろの実験や研究で、こんな製品や装置やソフトがあったらいいな、なんて思ったことはありませんか？ それはもう発明の種！ 生研では東大生の皆さんの豊かでユニークな発想とアイデアを支援するために、毎年、発明コンテストを開催しています。研究成果にもとづくバリバリの発明から、アイデア勝負のはったり応募まで、広い心で歓迎します。今年の募集期間もうすぐ、応募書類だって簡単です。皆さん、奮ってご参加ください。



●問い合わせ先・応募先

〒153-8505 東京都目黒区駒場4-6-1
東京大学生産技術研究所内 財団法人生産技術研究奨励会
発明コンテスト係
電話：03-5452-6094 Fax：03-5452-6096
E-mail：fpistol1@iis.u-tokyo.ac.jp

- 応募資格：東京大学の学生（学部学生・大学院生等）
- 応募期間：2008年7月1日(火)～9月30日(火)（必着） ※応募用紙は6月中旬から配布しております。
- 日程：2008年11月下旬：書類審査終了 予備審査結果の通知
2008年12月25日(木)：本審査 プレゼンテーション
2009年1月初旬：審査結果の通知
2009年1月下旬：表彰式
- 発明内容：日用品から専門知識を活かしたものまで、発明の分野を問いません。アイデアのみでも試作品段階でも結構です。
- 提出書類：応募用紙表紙（様式A）……………2部 発明説明書（様式B、A4版タテ記述自由形式）……………2部
発明確認シート（様式C）……………1部 応募用紙の様式A、Bの内容を含む電子媒体……………1部
※応募用紙は、以下のホームページからダウンロードできます。応募資格、賞金額、第1回から第5回までの本コンテストの詳細も参照することができます。 <http://hatsumei.iis.u-tokyo.ac.jp/>
- 審査：生産技術研究所（産学連携委員会）、産学連携本部、財団法人生産技術研究奨励会（TLO）、弁理士の関係者で行う予定
※審査においては、特許性よりもアイデアを重視する予定です。
- 表彰：発明大賞、産学連携本部長賞、生産技術研究所長賞、アイデア賞、奨励賞（数件）
※各賞に賞状、副賞、賞金（総額50万円）／参加者全員に記念品
※優秀な発明に対しては、特許出願のアドバイス

AWARDS

所属	職・氏名	受賞名・機関	受賞項目	受賞日
マイクロメカトロニクス国際研究センター (独)産業技術総合研究所 徳島大学 名古屋大学大学院工学研究科	助教 山本貴富 助教 野島高彦 教授 藤井輝夫 研究員 日野真美 博士研究員 角幡 怜 教授 篠原 康雄 教授 馬場 嘉信	Hot Article Award Analytical Sciences (社)日本分析化学会	Evaluation of Cell-free Protein Synthesis Using PDMS-based Microreactor Array	2008. 2.10
人間・社会系部門	特任研究員 赤塚 慎	測量技術奨励賞 (社)日本測量協会	NOAA/AVHRRを用いた陸域可降水量分布図作成手法の開発	2008. 5.20
機械・生体系部門	特任研究員 木村 啓志	第17回化学とマイクロ・ナノシステム研究会優秀ポスター発表賞 化学とマイクロ・ナノシステム研究会	体内毒性試験のためのオンチップ in vitro モデルの構築	2008. 5.21
基礎系部門	准教授 梅野 宜崇	平成20年度若手国際シンポジウム(材料力学部門) 優秀講演表彰 (社)日本機械学会	Ab initio study of ideal strength : Effect of multiaxial stress and structure	2008. 5.23
基礎系部門	准教授 梅野 宜崇	第13回分子動力学シンポジウム(分子動力学部門) 優秀講演表彰 (MD賞) (社)日本材料学会	引張りを受けるシリコンナノ薄膜の不安定変形解析	2008. 5.23
情報・エレクトロニクス系部門	教授 石井 勝 技術専門職員 齋藤 幹久 技術職員 藤井 文行	電気学術振興賞 論文賞 (社)電気学会	LEMP from Lightning Discharges Observed by JLDN	2008. 5.23
情報・エレクトロニクス系部門	准教授 佐藤 洋一 外3名	平成19年度電子情報通信学会論文賞 (社)電子情報通信学会	人間の視覚特性を考慮した投影画像の光学的補正	2008. 5.27
情報・エレクトロニクス系部門	准教授 橋本 秀紀 博士研究員 新妻美保子	The Best Paper Award in the area of Human Computer Interaction IEEE Human System Interaction Conference	IEEE Human System Interaction Conferenceに贈られる最優秀論文	2008. 5.27
情報・エレクトロニクス系部門	准教授 橋本 秀紀	HIS 2008 The Best Paper Award IEEE Human System Interaction Conference	IEEE Human System Interaction Conferenceにおいて最優秀論文に贈られる	2008. 5.27
情報・エレクトロニクス系部門	准教授 橋本 秀紀	Achievement Award of IEEE Human System Interaction Conference IEEE Human System Interaction Conference	組織委員として、IEEE Human System Interaction Conferenceに対する貢献	2008. 5.27
人間・社会系部門	教授 川口 健一 技術専門員 大矢 俊治	技術賞(特別賞) (社)日本免震構造協会	ゲージ振り子の原理に基づく新しい転がり型免震装置の開発	2008. 5.29
物質・環境系部門	教授 光田 好孝	Invited Presentation Award Interfinish 2008 World Congress and Exposition	Growth and In-Situ Sulfur Doping to Diamond Thin Films in a Microwave-Plasma Chemical Vapor Deposition	2008. 6.18

PRESS RELEASE

生研関連新聞記事

以下の各紙に掲載された生産技術研究所の研究成果に関する記事について紹介しています。

詳細は、総務・広報チームにお問い合わせください。

・読売、朝日、毎日、日経、産経、日刊工業、日経産業

なお、その他の新聞に掲載されたものを本欄に記載することを希望される場合は、総務・広報チームへご相談ください。

最新記事		
・日立製作所と東大、計算効率化 スパコン搭載LSI 消費電力を半減	[6/20 日刊工業新聞24面]	【桜井研究室】
・東大とサントリー 「水」で共同研究 寄付講座開設 [4/8 化学工業日報1面・日刊工業新聞29面・日経産業新聞(日経テレコン21)15面・朝日新聞(東京版)12面・朝日新聞(大阪版)10面・産経新聞(大阪版)8面・フジサンケイビジネスアイ9面・日本経済新聞12面・北海道新聞6面 4/10 食品産業新聞1面]		【沖研究室】
・NTTドコモ 生体分子で情報伝達 東大須藤和夫教授らと共同研究 [3/31 電経新聞2面 4/17 日経産業新聞(日経テレコン21)9面]		【竹内昌治研究室】
・東大、防災情報センター新設 住民への情報伝達法 学内外と連携し探る [3/13 日経産業新聞(日経テレコン21)10面・日刊建設工業新聞1面・朝日新聞33面・日刊工業新聞22面・フジサンケイビジネスアイ11面 4/1 日刊工業新聞2面 4/2 日刊建設工業新聞12面]		【都市基盤安全工学国際研究センター】
・東京大学生産技術研究所グループ推計 輸入食糧生産に水427億トン 国内年間農業用水量の8割相当 [3/1 読売新聞2面・毎日新聞1面・東京新聞・京都新聞・徳島新聞 3/2 朝日新聞2面 3/3 日刊工業新聞25面]		【沖研究室】



FRONTIER

光で色や形を変える

物質・環境系部門 教授 立間 徹

ナノサイエンスが注目されて10年ほど経っただろうか。しかし我々化学屋には、ナノに厳しい人も多い。ずっとサブナノを扱ってきたのに何を今さら…と、私も思っていた。しかし偶然、「ナノならではの」面白い現象に行き当たってしまった。

それはプラズモン共鳴という現象である。金や銀を数〜数十nmの粒子にすると、赤や黄色になる。電子が特定波長の光と共鳴し、吸収するからだ。古くからステンドグラスや切子の彩色に使われている。金属の種類、粒子のサイズや形によって色が違う。私達は、光触媒で知られる酸化チタンに銀ナノ粒子を載せて放置すると、灰褐色から徐々に色あせることに気付いた。調べると、銀ナノ粒子が光を吸収し、そのエネルギーで酸素に電子を渡してイオンに酸化され、光と共鳴しなくなるのだとわかった。

しかも、青や赤の光をあてると、その部分が同様の色に変化した。銀ナノ粒子は様々なサイズや形をしており、それぞれ共鳴波長が違う…つまり色が違う。それらが混ざって灰褐色を呈するのだが、たとえば赤色の光をあてると、その光と共鳴する粒子だけが酸化され、赤色を吸収せず反射・散

乱するようになるため、赤く見える(図1)。こうした色変化を示す材料はこれまでになく、私達はこの現象を多色フォトクロミズムと呼んだ(Nature Materials誌)。

紫外光をあてれば酸化チタンの光触媒作用で銀イオンは還元され、再び銀ナノ粒子になるので、描画・消去を繰り返せる。可視光と紫外光による銀の酸化・還元は、画像表示だけでなくゲルの収縮・膨潤にも使える(図2)。

しかし、銀ナノ粒子は古くからあるのに、なぜこの現象は気付かれなかったのか?…酸化チタンなど、限られた材料の上でのみ起こるからだ(図3)。光を吸収した銀ナノ粒子から酸化チタンが電子を引き抜き、それを酸素に渡す。つまり、正負の電荷を分けられる(電荷分離)。銀の代わりに安定な金を使えば、光を電気に変換したり(太陽電池)、酸化還元反応を起こしたり(可視光光触媒)できる。プラズモン共鳴による光吸収は非常に強く、粒子によっては、一層以下でもほとんどの入射光子を吸収する。また粒子サイズや形状を制御すれば、共鳴波長も変えられる。こうした特性を利用して、新しい光材料やデバイスを開発していきたい。

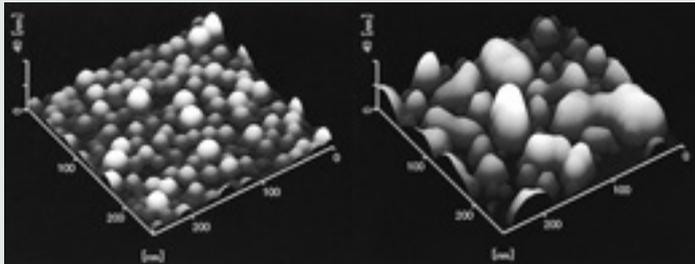


図1 赤色(左)および青色(右)を発色した、酸化チタン上の銀ナノ粒子

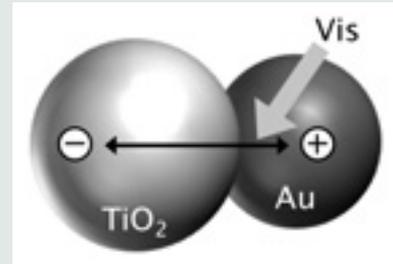


図3 光による電荷分離

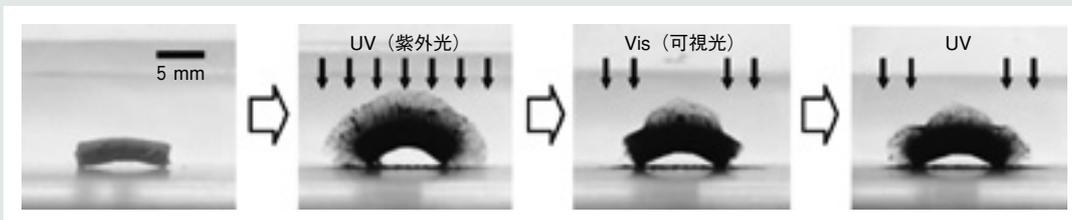


図2 光によるゲルの膨潤・収縮(水中)

■編集後記■

この後記を書いている時点では、洞爺湖サミット開催に臨み、日本中が環境問題に対して盛り上がりを見せています。巷では、コンビニエンスストアの24時間営業廃止など、刹那的な対応が目につきます。それをここで議論するつもりは毛頭ありません。ただし、ここまですなってしまった宇宙船地球号を、衰退させること

無く持続的なものにするためには、何か大きく変革しなければならない時季にさしかかったことは、きっと事実です。“It is not the strongest of the species that survive, nor the most intelligent, but the one most responsive to change.” いまこそ、我々が試されている時季なわけです。さて、何から始めましょうか。(小倉 賢)

■広報委員会 生研ニュース部会
〒153-8505 東京都目黒区駒場4-6-1
東京大学生産技術研究所
☎(03)5452-6017内線56017、56018

■編集スタッフ
竹内 昌治・桑水流 理・高宮 真
小倉 賢・竹内 渉・三井 伸子
E-mail : iisnews@iis.u-tokyo.ac.jp
生研ホームページ
<http://www.iis.u-tokyo.ac.jp/>